

論文要旨等報告書

氏 名 佐藤 公子
授与した学位 博士
専門分野の名称 博士(保健学)
学位授与番号 甲第4301号
学位授与の日付 平成23年3月25日
学位授与の要件 保健学研究科 保健学専攻
(学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目 Analysis of the Factors That Affect Dental Health Behaviour and Attendance at Scheduled Dental Check-ups Using the PRECEDE-PROCEED Model
(PRECEDE-PROCEED Model を用いた歯科保健行動、定期歯科健診受診に影響する要因の分析)
論文審査委員 深井 喜代子、齋藤 信也、兵藤 好美

学位論文内容の要旨

2008年10月～2009年3月に岡山県B市の乳幼児健康診査を受診した391名の保護者にPRECEDE-PROCEED Modelの7因子からなる質問紙調査を行い、歯科保健行動、定期歯科健診受診に影響する要因を分析した。調査用紙の内容は「QOL、健康問題」など22項目で、事前に保護者へ郵送し、健診当日回収した。収集したデータはt検定、ピアソンの相関係数で分析後、共分散構造分析を行った。その結果、歯科保健行動は強化因子から直接影響を受け、間接的に強化因子の影響を受けた実現因子と準備因子が関与していること、定期歯科健診には、準備因子と歯科保健行動が関与しており、環境因子の影響は少ないことが示された。このため、自己の生活に適應できる歯科保健行動や歯科保健教育を含む準備因子を充実させることが定期歯科健診受診の向上につながることを示唆された。

論文審査の結果の要旨

論文審査要旨：この論文は、Precede-proceed Modelの中の7因子を基に作成した質問票を用いて、県内一市の乳幼児健康診査を受診した保護者を対象に調査し、保護者の歯科保健行動と定期歯科健診に影響する因子を、共分散構造分析を用いて検討したものである。その結果、歯科保健行動は、同モデルの下位概念の1つである「強化因子」から直接影響を受け、同じくその下位概念である「実現因子」と「準備因子」が間接的に関与すること、また、定期歯科健診には「準備因子」と「歯科保健行動」が関与すること、さらに両者には「環境因子」の影響は少ないことが示唆された。この研究によって、乳幼児の歯の健康増進には学校や地域による組織的な保護者の教育を始めとする「準備因子」の強化が必要であることを、我が国で初めて明らかになった。概念構築と統計手法にはなお検討の余地を残すが、実証的なデータから、歯科保健活動と歯科医療の有機的連携の必要性を示唆したことは評価される。以上から、研究の独創性と今後の発展性の観点から、本論文は保健学研究科看護学分野における博士論文に適合すると判定した。